

第26回日本看護管理学会学術集会開催に向けて

学術集会長・宇都由美子氏に聞く！



第26回日本看護管理学会学術集会
が、来たる2022年8月19日(金)、20
日(土)に現地開催(会場：福岡国際会議
場、マリンメッセ福岡B館)およびオン
デマンド配信のハイブリッド形式で開催
されます。学術集会長の宇都由美子氏
(鹿児島大学病院医療情報部教授・部長
[兼] 特命副病院長)に、今回の学術集
会の特徴や見どころをご紹介いただきま
した。(本誌編集室)

時代のうねりの中で
大胆に挑戦し楽しもう

今回の学術集会のテーマは「時代のう
ねりに対応する看護管理の羅針盤—大胆
に挑戦して看護管理を楽しもう」としま
した。

テーマにある「時代のうねり」は、2
年ごとの診療報酬改定などに代表され
る、絶えず変化する医療界を取り巻く環
境を表現しています。中でもこの2年
半は、新型コロナウイルス感染症
(COVID-19)の感染拡大という未曾有
の事態が発生しました。かつて経験した
ことのない、うねりともいえる大きな時
代の変化を私たちは経験しています。こ
んな時代によく遭遇したな、と皆さんも
思っているのではないのでしょうか。

しかしそのような状況でも、医療や看
護は常に同じようにサービスを提供して
いかなければなりません。事態が大きく
変わっているからといって、サービスの
質を落とすことがあってはなりません。
そして、未知のことにも挑戦をしてい
かなければなりません。

ちょうどこのテーマを決めた時が
COVID-19の第6波の真っ只中でした。
こういうご時世になったのは仕方な
い、それをうまく受け止めて、むしろ
チャレンジャーになろうよ、そんなこ
とを思っていました。

看護管理者は、スタッフの健康管理、
人員調整をしながら色んなやりくりを

て、今ようやくさまざまなチャレンジが
日常的にできるようになってきました。
時代のうねりの中で翻弄されてしま
いがちですが、看護管理者だからこそ、ピン
チはチャンスと捉えて、自分たちの看護
力、現場力を高めようと発想を転換し
て、ここまで乗り切ってきたと言えま
す。

そして「大胆に」には、細かいことは
気にするな、石橋を叩いて渡るという美
徳はあるものの、叩いているうちに壊れ
ちゃうよ、今まで以上に迅速に判断し
ようよという気持ちを込めました。このコ
ロナ禍において、皆チャレンジャーに
なっていたと思います。大胆に挑戦する
ことが看護管理者の醍醐味だと思います。

また、「楽しもう」には、同じことを
して同じ時間を過ごすなら、不平不満を
言って悲しみ苦しみながらやるよりも、
楽しもうよ、楽しんだほうが同じ時間か
ら得られるものは大きいし、それによ
ってもっと大きく成長できる、同じ状況
でもポジティブに、私たちには後ろなんて
振り向いている時間はないよ、そんな思
いを込めました。

以上のことから、このようなテーマと
しました。

現地で生の声を！
積極的な交流を！

開催方法は、8月19日(金)、20日
(土)に現地開催とし、8月19日(金)～9
月30日(金)の期間でオンデマンド配信
を予定しています。

Web開催とする選択肢もありました
が、現地で生の声を聞き、生身から発せ
られるオーラや気力を感じてほしいとい
う思いがあり、また、現地開催を望む声
が聞かれることも多く、現地開催および
オンデマンド配信のハイブリッド形式で
の開催としました。

講演や講義は、知識や経験の多い人が

少ない人に一方的にそれを提供するとい
うかたちで、Webでも十分に成果を出
せます。しかし、少なくとも学術交流の
場は、研究者や研究に興味を持っている
実践家たちが同じ目線で意見交換をす
ることが目的ですので、一方通行で話を聞
くだけでは、絶対に物足りないと思いま
す。現地に来て、ロビーで発表者や他の
参加者を捕まえて、「先ほどのセッション
ではあのようにおっしゃっていましたが、
本当のところはどうなんですか。実
際にはこうではないでしょうか」と語り
合う、そういうことができるのが、現地
開催のよいところだと思います。

ご自分の病院を2～3日空けて外に出
ることは普段なかなかできない看護管理
者の皆さんにとって、日本看護管理学会
の学術集会は、周囲にあまり気兼ねする
ことなく出て来やすい機会かと思いま
す。今回の学術集会は、看護管理に関す
る最新の知見を得る場、他の病院の看護
管理者とコミュニケーションを取る場と
して、とても大事な機会になると考えま
す。COVID-19の影響で先行き不透明
な状況ではありますが、ぜひ現地にお越
しいただいて、たくさん話す、本音で話
すということをしていただけると嬉しい
です。

明日からまた元気になれる
熱い講演

今回の学術集会の企画委員のほとん
どを、福岡をはじめとする九州の医療機
関の看護管理者や大学の先生方にお願
いしました。九州人には熱い面があるよ
うで、オール九州で頑張ろうよ、とい
うことで皆さん燃えています。

その企画委員と、特別講演や教育講演
でどんな方々のお話を聞きたいかを話
し合っていたところ、せっかく九州での
開催なので九州の特色を出したいとい
うことになりました。そこで企画委員に、
実際に自分がお話を聞いたことがあって面



白かった・有益だった方を挙げてもらったら、麻生泰氏（九州経済連合会名誉会長）や青柳俊彦氏（九州旅客鉄道株式会社代表取締役会長）などのお名前が挙がりました。

これらの講演をお願いする方々には、私が直接お願いに上がりました。麻生氏や青柳氏、南部靖之氏（株式会社パナソニック代表取締役グループ代表）などには、日本看護管理学会の特色を伝えて依頼しました。看護管理者にどんな話をすればよいですかと戸惑われたりもしましたが、勇気と活力を頂けるような話であれば、内容はお任せしますとお願いしました。看護管理者の多くはマネジメント上のさまざまな課題に立ち向かっており、それらが重なり自信を失ってしまいます。そんな看護管理者に、あなたのやっていることは正しいんだ、もっと自信を持って前に進め、というようなことを言っていただきたとお伝えしたところ、快く引き受けてくださいました。

実際に企画委員が講演を聞いてよかったと感じた方々から、勇気と活力を得られるお話を直接聞ける学術集会です。皆さんも参加した次の日からさらにやる気が出るような、熱い学術集会になると思います。また、管理というものについて、異なった産業・分野の人たちのサクセスストーリーや苦労話から学んでいただきたいと思います。

表 学術集会の主なプログラム (詳しくは学術集会ウェブサイトをご確認ください)

学術集会長講演：宇都由美子
基調講演：坂本すが（日本看護管理学会理事長）
特別講演：麻生泰（九州経済連合会名誉会長）

教育講演

- ・九州を元気に！そして日本・アジアを元気に!!：青柳俊彦（九州旅客鉄道株式会社代表取締役会長）
- ・真のダイバーシティを目指してーパナソニック女性活躍推進の取り組み：南部靖之（株式会社パナソニック代表取締役グループ代表）

シンポジウム

- ・進む医療 DX と社会の変化に看護情報教育・情報倫理教育は追いつくか：苅浦澤幸子（岩手医科大学）、村岡修子（NTT 東日本関東病院）、岩穴口孝（鹿児島大学病院）、美代賢吾（国立国際医療研究センター）
- ・質の高い医療を効率的に提供する「スマートホスピタル」の実現：足田智子（京都大学医学部附属病院）、藤野泰平（株式会社デザインケアみんなのかりつけ訪問看護ステーション代表取締役）、高橋真人（株式会社 FRONTEO ライフサイエンス事業本部）、田口美保（昭和大学病院）
- ・看護管理者が知るべきデータサイエンス：吉田拓真（鹿児島大学大学院）、久保雅洋（日本電気株式会社バイオメトリクス研究所）、仲上豪二郎（東京大学大学院）

NA REPORT

IT 化のうねりに立ち向かう

シンポジウムなどの企画では、デジタルトランスフォーメーション（DX）やスマートホスピタルといった ICT 関連の話題を扱います。今や、看護の現場の中で意識していなくても、IT 化は進んでいます。また、2018 年に経済産業省が DX を提唱し、看護の現場にも少しずつ浸透しつつあります。さらに、内閣府が Society 5.0 をこれから進めていく時代です。たとえ自分たちには無縁だと思っていなくても、時代の大きなうねりの中に巻き込まれていきます。その時に、自分たちがそういった新しい技術を使って何をしたいのかという目的意識を持って、今から立ち向かってほしいのです。

そのため今回の学術集会でも、シンポジウムや、日本看護管理学会の特徴の一つでもあるインフォメーションエクスチェンジなどの中で、自由に意見交換をしてもらいたいと思います。ICT の活用に先駆的に取り組んでいる病院がちらほ

ら出てきているので、そういう病院から先人の苦労なども含めて話を聞いてもらいたいと考えています。

福岡で夢や苦労を語り合いましょう！

皆さん、これまでなかなか学術集会の現地に行けなかったというフラストレーションがたまっているのではないのでしょうか。ぜひこの福岡・博多にお越しいただいて、看護管理者としての夢や苦労などを一緒に語り合えたらと思います。特別講演や教育講演、シンポジウムをはじめ、素晴らしい企画やセッションが盛りだくさんで、間違いなく楽しんでいただける 2 日間になると思っています。ご来場をお待ちしております。

学術集会ウェブサイト

<https://site.convention.co.jp/26janap/>